

大学院大学における履修方法（案）

1 授業科目の設定

- 共通科目 8 科目、公衆衛生学（5 領域）基礎科目 23 科目、
ゲノム医学専門科目 7 科目、発展科目 15 科目
- 研究指導は、養成する人材像により、修士論文、課題研究から選択
- 卒業に必要な単位は、米国公衆衛生学教育協議会の基準の 42 単位

2 時間割の設定

- 必修科目（19 科目）は、原則 1 年次前期（18 科目）に設定（1 科目のみ後期前半に設定）
- 1 年次、2 年次を通じて、学生の受講日は週 3 日の受講で、必要単位（42 単位）が取得できるように設定

3 メディアの活用による授業

- 講義科目については、「遠隔授業（同時双方向型のテレビ会議方式）」
と「e-ラーニング（オンデマンド型＋課題提出）」を併用
- 演習科目については、必要に応じて遠隔授業を検討

別記様式第 2 号 (その 3 の 1)

(用紙 日本工業規格 A 4 縦型)

授 業 科 目 の 概 要			
(社会健康医学研究科 社会健康医学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共 通 科 目	各自治体の健康づくりの取組と静岡県の特徴	静岡県内の各地域が抱える健康課題と、自治体（市町）が取り組む健康施策を概括し、健康寿命延伸のために必要な施策の選択、集中等について講義を行う。 (オムニバス形式)	
	社会健康医学概論	従来の公衆衛生学と同様に予防医学や先制医学の視点を基礎としつつ、地域における保健を研究対象とするだけでなく、病院などの医療現場も含めた社会全体を対象とした研究の必要性について講義を行う。	
	文献検索法、文献評価法	社会健康医学（パブリックヘルス）領域において、基本的なスキルの 1 つである文献検索の方法と、疫学、E B M（根拠に基づく医療）の知識をもとに、各種の健康・医療情報を検索し、批判的に吟味し、主体的に活用する方法について講義を行う。	
	公的統計活用法	国の行政機関・地方公共団体などが作成する公的統計を、社会健康医学研究に活用する手法を学ぶ。	
	基礎医学講座	医療、保健、福祉に携わる保健医療従事者が連携していく上で不可欠な医学に関する基礎知識と今日的課題について講義を行う。	非医系学生（医学、歯学、薬学、保健学、看護学以外の学部又は学科の卒業生）を対象
	公衆衛生危機管理論	地震や台風等の自然災害、食中毒や新型インフルエンザ等の感染症など、公衆衛生を取り巻く危機管理への適切なアプローチについて講義を行う。 (オムニバス形式)	
	プレゼンテーション・ライティングスキル	研究成果の発表や資金獲得のためのプレゼンテーションや、学術論文や報告書の執筆に当たっての効果的な技法について講義を行う。	
	介護学概論	高齢者や障害者に対する科学的な根拠に基づく生活支援についての講義を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
公衆衛生学基礎科目	疫学	疫学概論	人間集団を対象とする疫学研究の意義を学ぶとともに、自分の疑問を構造化し、研究の基本設計図を作成するために必要な理論や基本的知識について講義を行う。	
		疫学特論	疫学概論で学んだ内容を基に、リサーチクエスチョンを見出し、研究仮説を立て、仮説に合ったデザインを構築し、データ収集を行い、適切なデータ解析を実施して意味のある分析結果を出し、学術的に妥当な解釈を行うという一連の研究方法について演習を通じて学ぶ。	
		臨床研究概論	臨床研究を行うために必要な、医学研究デザイン、主要評価項目、対象者の選出方法、研究倫理、医療統計学など基本的な医学研究方法論について講義を行う。	
		臨床研究特論	臨床研究概論で学んだ内容を基に、リサーチクエスチョンを見出し、研究仮説を立て、仮説に合ったデザインを構築し、データ収集を行い、適切なデータ解析を実施して意味のある分析結果を出し、学術的に妥当な解釈を行うという一連の研究方法について演習を通じて学ぶ。	
	医療統計学	医療統計概論	人を対象とした臨床、疫学研究を計画・実施するためのデータ解析を行う上で必要となる、医療統計学の基本的考え方について講義を行う。	
		医療統計特論	医療統計概論で学んだ内容を基に、既に公開されている臨床研究データ、もしくは臨床研究から得られた実データに基づいた擬似データを用いて一連の統計解析を実施する方法について演習を通じて学ぶ。	
		臨床試験解析学	治験等の臨床試験実施の流れや、試験で得られたデータの解析手法・管理方法等について講義を行う。	
		観察研究解析学	研究対象に対して意図的な介入を行わず、対象者の行動を広範な情報を集めて観察する、コホート研究（前向き調査）、ケースコントロール研究（後ろ向き調査）などの観察研究の手法や、収集したデータの解析手法等について講義を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
公衆衛生学基礎科目	環境健康科学	環境健康科学・産業衛生学概論	人を取り巻く環境とその変動が健康に及ぼす影響を学ぶとともに、リスクアセスメントとリスクマネジメントの方法の基礎について講義を行う。	
		環境健康科学・産業衛生学特論	環境健康科学・産業衛生学概論で学んだ内容を基に、具体的な有害物質の影響と対策、労働環境の改善の手法等について演習を通じて学ぶ。	
		生活習慣病概論	食事、運動、休養、喫煙、飲酒などの生活習慣により発症、進行する生活習慣病の概要と、予防のための取組について講義を行う。	
		生活習慣病特論（栄養と遺伝子）	生活習慣病概論で学んだ内容を基に、特に栄養と遺伝子に着目した予防手法について演習を通じて学ぶ。	
	行動医科学・ヘルスコミュニケーション学	健康情報学	疫学やEBM（科学的根拠に基づく医療）を基本として、医学文献からマスメディア、インターネットによる健康情報まで、様々な情報の特徴を知り、それらを主体的、効果的に活用する方法について講義を行う。	
		ヘルスコミュニケーション概論	健康増進と疾病予防に関する情報を効果的に行うためのコミュニケーション手法の基礎について講義を行う。	
		ヘルスコミュニケーション特論	ヘルスコミュニケーション概論で学んだ内容を基に、具体的なコミュニケーション手法について演習を通じて学ぶ。	
		行動医科学	行動科学理論に基づき人間の行動を科学的に理解し、健康増進への行動変容を促すための基本知識について講義を行う。	
		健康医療社会学	「病気とは何か」について考察し、健康や医療問題の社会的側面を社会学的に解明していくための手法について講義を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
公衆衛生学基礎科目	健康・医療ビッグデータ概論	健診データや診療情報、介護認定データなど、医療や介護を取り巻くビッグデータの解析手法と活用方法の基本的考え方について講義を行う。	
	健康・医療ビッグデータ特論	健康・医療ビッグデータ概論で学んだ内容を基に、保険者や医療機関等の具体的なデータを用いて解析し、医療や介護の現場で活用できるアウトプットを見出す手法について演習を通じて学ぶ。	
	健康政策・医療経済学概論	公的医療保険制度など健康に関するわが国の制度や政策を概観しつつ、今後、持続可能な制度として確立するための具体的な政策展開について、ミクロ経済学等の知識も活用して講義を行う。	
	健康政策・医療経済学特論	健康政策・医療経済学概論で学んだ内容を基に、社会保障制度の将来予測を行いつつ、具体的な政策提言のあり方について演習を通じて学ぶ。	
	社会健康医学倫理概論	社会健康医学における研究と実践の基礎となる医療倫理の考え方、研究倫理申請などについて講義を行う。	
	社会健康医学倫理特論	社会健康医学倫理概論で学んだ内容を基に、医療や介護等の現場における疾病予防対策や健康増進施策の実践上の課題等について演習を通じて学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ゲノム医学専門科目	ゲノム医学概論	疾病や健康に関する遺伝因子や環境因子の解明に役立つゲノムコホート研究のデザインや分析・解析方法の基本的考え方について講義を行う。	
	ゲノム医学特論	ゲノム医学概論で学んだ内容を基に、ながはま0次コホートの具体的研究内容やその成果について演習を通じて学ぶ。	
	ゲノム・オミックス解析法	(作成中)	
	遺伝カウンセリング	主要な遺伝性疾患の病態や、遺伝的問題の把握、それらの疾患に関わる遺伝カウンセリングの基本的な考え方や留意点について講義を行う。	
	遺伝カウンセリング実習	遺伝カウンセリングで学んだ内容を基に、遺伝カウンセリングの現場に同席し、その現状を体験するとともに、予診の聴取、家系図の作成、電話フォローアップなどについて実習を通じて学ぶ。	
	人類遺伝学	遺伝学の基本的考え方を身に付けるため、細胞遺伝学、分子遺伝学、メンデル遺伝学、非メンデル遺伝、集団遺伝学などについて系統的な講義を行う。	
	ゲノム医学特論 (疾患と遺伝子)	ゲノム医学概論で学んだ内容を基に、具体的な遺伝診療現場における課題とその解決手法について演習を通じて学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
発展科目	フィールド実習	医療機関や介護施設等における疾病予防対策、健康増進施策の実態と課題、県内のゲノムコホート研究の具体的研究内容やその成果について実習を通じて学ぶ。	
	死生学	県民が長寿化中、医療や介護等の現場において役立つ、人生の最終段階における医療・ケアのあり方について講義を行う。	
	社会健康医学における質的研究	客観的なデータだけでは把握できない事象の質的理解に資するフィールドワークやインタビューなどの手法について講義を行う。	
	社会健康医学における混合研究	社会健康医学における質的研究で学んだ内容を基に、量的研究と質的研究の両方からのアプローチにより、事象を広く深く理解する能力を養うための講義を行う。	
	精神保健学概論・心理社会的支援技術論	疾病予防対策、健康増進施策の立案に当たり、実際に県民に行動を喚起させる手法について講義を行う。	
	医療・ケア組織論	医療や介護等の現場において、疾病予防対策や健康増進施策を継続的かつ効果的に展開するための組織のあり方等について講義を行う。	
	介護学特論	介護学概論で学んだ内容を基に、介護の現場で実際に起きている課題を把握し、具体的に解決していく手法について演習を通じて学ぶ。	
	高齢者運動・リハビリテーション論	高齢者の疾病・介護予防対策、健康増進施策の立案に資する、具体的な手法やその効果について講義を行う。	
	聴覚コミュニケーション学概論	人間のコミュニケーション手段として音声言語が主要な手段であるが、音声言語獲得には聴覚が必須であることを講義する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
発展科目	聴覚コミュニケーション特論	人間の音声を聞き分ける聴覚の発達には臨界期（最適期）があり、幼少時期の音声による聴覚刺激が重要であることを講義する。	
	小児聴覚評価法	小児の聴覚閾値は行動観察によるもの、電気生理学的検査などあるが、言語聴取（弁別）と音の閾値の関連などについて講義する。	
	小児難聴マネジメント	乳幼児の難聴が判明すれば、補聴器装用を開始し、その効果が乏しければ人工内耳を考慮する。人工内耳適応がない場合、視覚情報によるコミュニケーション手段を考える。いずれも発達に応じた評価と介入法について講義する。	
	聴覚リハビリテーション戦略	音声言語のための聴覚を発達させるためには、ことばのシャワーを常時浴びる必要があるので保護者の役割が大事であることを理解しつつ、聴覚補償機器の選択、保護者の指導法について講義する。	
	発語認知	発語認知のために聴覚による理解が先行する。音韻の認知から喃語、有意味語の理解、認知に進む過程を講義する。	
	オーディオロジー(脳の発達と聴覚)	乳幼児の聴覚野の発達を客観的に捉える方法を確立し、難聴児の聴覚野をスムーズに発達させるための介入法を探索する。また、視覚刺激と言語野の関連を研究し、その結果を講義する。	
演習等特別研究	修士論文	主指導教員の指導と副指導教員の助言の下、社会健康医学の各分野に関する先行研究の調査や疫学調査等を行い、修士論文を作成する。	
	課題研究	修士論文の作成と同様、主指導教員の指導と副指導教員の助言の下、社会健康医学の各分野に関する先行研究の調査や疫学調査等を行い、より実践的な内容の課題研究報告書を作成する。	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校に於ける学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

履修モデル（案）

人材育成の基本的な方向性として、本学では①保健・医療・福祉領域の高度医療専門職、②健康づくり実務者、③健康寿命の延伸に取り組む研究者を主に想定している。

以下に、それぞれの人材像ごとに履修モデルを示す。なお、本研究科が提示する履修モデルは、コース制度とは異なり、学生はモデルに沿った履修が不可欠ではないものの、希望する人材像に即した履修の参考となるモデルとして、各モデルの狙いなどについて入学時に開催する履修登録ガイダンスにて詳細に説明を行う。

ア 疫学に精通した高度医療専門職

（ア）想定する学生像

社会健康医学の研究や取組の担い手や、地域医療のリーダーとなることを志す者

＜対象として考えられる職種＞

- ・ 地域の病院や診療所に勤務する医師、歯科医師、薬剤師、看護師など
- ・ 健診機関で健康指導を行う医師、保健師、栄養士など

（イ）目標

単なる病気の治療や延命の操作だけでなく最期まで元気で健康に暮らしたいという県民の希望を理解し、健康寿命の更なる延伸を実現するため、県内の多くの健康増進に関わる拠点で、静岡県地域医療のリーダーとなり、県民により身近な場所で科学的な知見に基づくデータ分析や健康増進施策、疾病予防対策などを担うために必要な知識と技術を修得する。

（ウ）基本的な履修の考え方

本大学院大学の基本的な趣旨である社会健康医学の概念や、文献検索法など研究に必要な基本的知識をはじめとした「共通科目」を学んだ上で、公衆衛生の5つのコア領域（疫学、医療統計学、環境健康科学、行動医科学、健康管理・政策学）の専門的知識を身に付けるための「公衆衛生学基盤科目」を履修する。

また、疫学に精通した高度医療専門職として、ゲノム医学や遺伝カウンセリングなどの「ゲノム医学専門科目」や、質的研究・混合研究や医療ケア組織論などの「発展科目」を履修する。

なお、健康寿命の延伸に資する聴覚研究について興味がある者は、聴覚コミュニケーションやオーディオロジーの「自由科目」を履修することで、本大学院大学から独自の資格を認定することを検討する。

（エ）修了要件の考え方

修了後に所属する医療や介護等の現場において、具体的な研究課題を見つけ、課題解決のための研究計画を自ら立案し、実行できる能力や、研究成果を効果的に還元できる能力を身に付けることを目指し、課題研究報告書としてとりまとめる。

（オ）修了後の進路例

- ・ 臨床データの有効活用に精通した地域の医療現場で活躍する医療専門職
- ・ 科学的な知見に基づきデータ分析や疾病対策、健康づくりなどを担う医療専門職
- ・ 臨床試験・コホート研究に従事する研究意欲をもった医療専門職

<疫学に精通した高度医療専門職（医師）>

科目区分	授業科目名	配当年次		必修/選択	単位数	疫学に精通した高度医療専門職			
		1年	2年			医師			
						ディプロマポリシー			
						①	②	③	④
共通科目	各自治体の健康づくりの取組と静岡県の特性	前		必修	2		○		○
	社会健康医学概論	前		必修	2	○			
	文献検索法、文献評価法	前		必修	1		○		
	公衆衛生危機管理論	後		選択	2				○
	プレゼンテーション・ライティングスキル	後		必修	1			○	
	介護学概論	前		必修	1			○	
公衆衛生学基盤科目	疫学領域	疫学概論	前		必修	1	○		
		疫学特論	後		選択	1	○		
		臨床研究概論	前		必修	1		○	
		臨床研究特論	後		選択	1		○	
	医療統計学領域	医療統計概論	前		必修	2	○		
		医療統計特論	後		選択	2	○		
		臨床試験解析学		前	選択	1		○	
		観察研究解析学		前	選択	1		○	
	環境健康科学領域	環境健康科学・産業衛生学概論	前		必修	2	○		
		環境健康科学・産業衛生学特論	後		選択	1	○		
	行動医科学・ヘルスコミュニケーション学領域	健康情報学	後		選択	1			○
		ヘルスコミュニケーション概論	前		必修	1			○
		行動医科学	前		必修	1	○		
		健康医療社会学	後		選択	2			○
	健康管理・政策学領域	健康・医療ビッグデータ概論	前		必修	1		○	
		健康政策・医療経済学概論	前		必修	1	○		
		社会健康医学倫理概論	前		必修	1		○	
	ゲノム医学専門科目	ゲノム医学概論	前		必修	1		○	
ゲノム医学特論（疾患と遺伝子）			前	選択	2		○		
発展科目	死生学		前	選択	1				○
	社会健康医学における質的研究	後		選択	1		○		
	社会健康医学における混合研究	前		選択	1		○		
	精神保健学概論・心理社会的支援技術論	前		選択	1			○	
	医療・ケア組織論	前		選択	1				○
演習等特別研究	課題研究	一	通	必修	4		○		
					必修計	23			
					選択計	19			
					合計	42			

<ディプロマポリシー>

①	公衆衛生の5つのコア領域の基本的内容を理解
②	研究計画を自ら立案し、実行できる能力
③	研究成果を還元できるヘルスコミュニケーション能力
④	実践活動においてリーダーシップを発揮できる能力

<疫学に精通した高度医療専門職（薬剤師、看護師等）>

科目区分	授業科目名	配当年次		必修/選択	単位数	疫学に精通した高度医療専門職			
		1年	2年			医療専門職 (薬剤師、看護師等)			
						ディプロマポリシー			
						①	②	③	④
共通科目	各自治体の健康づくりの取組と静岡県の特性	前		必修	2		◎		◎
	社会健康医学概論	前		必修	2	◎			
	文献検索法、文献評価法	前		必修	1		◎		
	公衆衛生危機管理論	後		選択	2				◎
	プレゼンテーション・ライティングスキル	後		必修	1			◎	
	介護学概論	前		必修	1			◎	
公衆衛生学基盤科目	疫学領域	疫学概論	前		必修	1	◎		
		疫学特論	後		選択	1	◎		
		臨床研究概論	前		必修	1		◎	
		臨床研究特論	後		選択	1		◎	
	医療統計学領域	医療統計概論	前		必修	2	◎		
		医療統計特論	後		選択	2	◎		
		臨床試験解析学		前	選択	1		◎	
		観察研究解析学		前	選択	1		◎	
	環境健康科学領域	環境健康科学・産業衛生学概論	前		必修	2	◎		
		環境健康科学・産業衛生学特論	後		選択	1	◎		
	行動医科学・ヘルスコミュニケーション学領域	健康情報学	後		選択	1			◎
		ヘルスコミュニケーション概論	前		必修	1			◎
		行動医科学	前		必修	1	◎		
		健康医療社会学	後		選択	2			◎
	健康管理・政策学領域	健康・医療ビッグデータ概論	前		必修	1		◎	
		健康政策・医療経済学概論	前		必修	1	◎		
		社会健康医学倫理概論	前		必修	1		◎	
	ゲノム医学専門科目	ゲノム医学概論	前		必修	1		◎	
		遺伝カウンセリング	後		選択	1		◎	
		遺伝カウンセリング実習		前	選択	1		◎	
発展科目	死生学		前	選択	1				◎
	社会健康医学における質的研究	後		選択	1		◎		
	社会健康医学における混合研究		前	選択	1		◎		
	精神保健学概論・心理社会的支援技術論		前	選択	1			◎	
	医療・ケア組織論		前	選択	1				◎
	聴覚コミュニケーション学概論	後		自由	1		○		
	聴覚コミュニケーション学特論	後		自由	1		○		
	小児聴覚評価法		前	自由	1		○		
	小児難聴マネジメント		前	自由	1		○		
	聴覚リハビリテーション戦略		前	自由	1		○		
	発語認知	後		自由	1		○		
	オーディオロジー（脳の発達と聴覚）		前	自由	1		○		
演習等特別研究	課題研究	—	通	必修	4		◎		

必修計	23
選択計	19
合計	42

<ディプロマポリシー>

①	公衆衛生の5つのコア領域の基本的内容を理解
②	研究計画を自ら立案し、実行できる能力
③	研究成果を還元できるヘルスコミュニケーション能力
④	実践活動においてリーダーシップを発揮できる能力

イ ビッグデータに精通した健康づくり実務者

(ア) 想定する学生像

保健所などにおいて社会健康医学の知見を取り入れた健康指導などを行い、健康寿命の更なる延伸に資する施策を担うことを志す学生

<対象として考えられる職種>

- ・保健所（行政）や企業で健康づくり活動を行う保健師、栄養士など
- ・社会福祉施設で健康指導や機能回復訓練を行う看護師、介護職員など

(イ) 目標

社会健康医学の研究で得られたデータや科学的知見に基づく健康増進活動や疾病予防対策について、県民の生活に取り込むことができるために必要な知識と技術を修得する。

(ウ) 基本的な履修の考え方

本大学院大学の基本的な趣旨である社会健康医学の概念や、文献検索法など研究に必要な基本的知識をはじめとした「共通科目」を学んだ上で、公衆衛生の5つのコア領域（疫学、医療統計学、環境健康科学、行動医科学、健康管理・政策学）の専門的知識を身に付けるための「公衆衛生学基盤科目」を履修する。

また、ビッグデータに精通した健康づくり実務者として、医療機関や介護施設等におけるフィールド実習や、精神保健学や高齢者運動・リハビリテーション論などの「発展科目」を履修する。

なお、健康寿命の延伸に資する聴覚研究について興味がある者は、聴覚コミュニケーションやオーディオロジーの「自由科目」を履修することで、本大学院大学から独自の資格を認定することを検討する。

(エ) 修了要件の考え方

修了後に所属する自治体や企業等の現場において、地域や職場が抱える健康課題を見つけ、課題解決のための実践活動においてリーダーシップを発揮できる能力を身に付けることを目指し、課題研究報告書としてとりまとめる。

(オ) 修了後の進路例

- ・行政や企業などにおいて、科学的知見を取り入れた健康指導などを担う健康づくり実務者

<ビッグデータに精通した健康づくり実務者（保健師、栄養士等）>

科目区分	授業科目名	配当年次		必修/選択	単位数	ビッグデータに精通した健康づくり実務者（保健師、栄養士等）			
		1年	2年			ディプロマポリシー			
						①	②	③	④
共通科目	各自治体の健康づくりの取組と静岡県の特徴	前		必修	2		◎		◎
	社会健康医学概論	前		必修	2	◎			
	文献検索法、文献評価法	前		必修	1		◎		
	公的統計活用法	後		選択	1		◎		
	公衆衛生危機管理論	後		選択	2				◎
	プレゼンテーション・ライティングスキル	後		必修	1			◎	
	介護学概論	前		必修	1			◎	
公衆衛生学基盤科目	疫学領域	疫学概論	前		必修	1	◎		
		臨床研究概論	前		必修	1		◎	
	医療統計学領域	医療統計概論	前		必修	2	◎		
		観察研究解析学		前	選択	1		◎	
	環境健康科学領域	環境健康科学・産業衛生学概論	前		必修	2	◎		
		環境健康科学・産業衛生学特論	後		選択	1	◎		
		生活習慣病概論	後		選択	1		◎	
		生活習慣病特論（栄養と遺伝子）		前	選択	1		◎	
	行動医科学・ヘルスコミュニケーション学領域	健康情報学	後		選択	1			◎
		ヘルスコミュニケーション概論	前		必修	1			◎
		ヘルスコミュニケーション特論		前	選択	1			◎
		行動医科学	前		必修	1	◎		
		健康医療社会学	後		選択	2			◎
	健康管理・政策学領域	健康・医療ビッグデータ概論	前		必修	1		◎	
		健康・医療ビッグデータ特論		前	選択	1		◎	
		健康政策・医療経済学概論	前		必修	1	◎		
		健康政策・医療経済学特論		前	選択	1	◎		
社会健康医学倫理概論		前		必修	1		◎		
ゲノム医学専門科目	ゲノム医学概論	前		必修	1		◎		
発展科目	フィールド実習		前	選択	1		◎		◎
	死生学		前	選択	1				◎
	精神保健学概論・心理社会的支援技術論		前	選択	1			◎	
	医療・ケア組織論		前	選択	1				◎
	介護学特論		前	選択	1		◎		
	高齢者運動・リハビリテーション論		前	選択	1			◎	◎
	聴覚コミュニケーション学概論	後		自由	1		○		
	聴覚コミュニケーション学特論	後		自由	1		○		
	小児聴覚評価法		前	自由	1		○		
	小児難聴マネジメント		前	自由	1		○		
	聴覚リハビリテーション戦略		前	自由	1		○		
	発語認知	後		自由	1		○		
	オーディオロジー（脳の発達と聴覚）		前	自由	1		○		
	演習等特別研究	課題研究	—	通	必修	4		◎	
					必修計	23			
					選択計	19			
					合計	42			

<ディプロマポリシー>

①	公衆衛生の5つのコア領域の基本的内容を理解
②	研究計画を自ら立案し、実行できる能力
③	研究成果を還元できるヘルスコミュニケーション能力
④	実践活動においてリーダーシップを発揮できる能力

ウ ゲノム研究者

(ア) 想定する学生像

社会健康医学研究を長期かつ継続的に行うことを志す者

<対象として考えられる職種>

- ・医療機関や健診機関で医療データの解析を行う専門家
- ・研究成果を健康増進施策に効果的に結び付けるための、心理学、生命倫理学、行動学などの専門家
- ・大学を卒業後、ビッグデータの活用や疫学研究、ゲノムコホート研究の研究職を目指す者

(イ) 目標

科学的知見からの手法に基づいた県民の健康寿命の更なる延伸を目的として、今までの施策の体系化や医療データの要因分析などを継続的に進めていく役割を担うために必要な知識と技術を修得する。

(ウ) 基本的な履修の考え方

本大学院大学の基本的な趣旨である社会健康医学の概念や、文献検索法など研究に必要な基本的知識をはじめとした「共通科目」を学んだ上で、公衆衛生の5つのコア領域（疫学、医療統計学、環境健康科学、行動医科学、健康管理・政策学）の専門的知識を身に付けるための「公衆衛生学基盤科目」を履修する。

また、ゲノム研究者として、ゲノム研究の解析手法や人類遺伝学などの「ゲノム医学専門科目」や、実際のゲノムコホート研究の現場でのフィールド実習である「発展科目」を履修する。

(エ) 修了要件の考え方

修了後に所属する研究機関において、長期かつ継続的にゲノムコホート研究を実施することを旨とするとともに、将来的な博士課程への進学も視野に、修士論文をとりまとめる。

(オ) 修了後の進路例

- ・医療ビッグデータ解析のための医療統計手法に通じた臨床研究のサポート役となる専門技術者
- ・医療保険者、企業における健康ビッグデータ分析専門家
- ・医療データの要因分析などを継続的に進めていく役割を担う研究者
- ・ゲノムコホートを通じたヒト生物学研究など、多様な生命情報を総合的に分析・解析する能力を持つ研究者

<ゲノム研究者>

科目区分	授業科目名	配当年次		必修/選択	単位数	ゲノム研究者			
		1年	2年			ディプロマポリシー			
						①	②	③	④
共通科目	各自治体の健康づくりの取組と静岡県の特徴	前		必修	2		◎		◎
	社会健康医学概論	前		必修	2	◎			
	文献検索法、文献評価法	前		必修	1		◎		
	基礎医学講座	後		選択	1	◎			
	プレゼンテーション・ライティングスキル	後		必修	1			◎	
	介護学概論	前		必修	1			◎	
公衆衛生学基盤科目	疫学領域	疫学概論	前		必修	1	◎		
		疫学特論	後		選択	1	◎		
		臨床研究概論	前		必修	1		◎	
		臨床研究特論	後		選択	1		◎	
	医療統計学領域	医療統計概論	前		必修	2	◎		
		医療統計特論	後		選択	2	◎		
	環境健康科学領域	環境健康科学・産業衛生学概論	前		必修	2	◎		
		環境健康科学・産業衛生学特論	後		選択	1	◎		
		生活習慣病概論	後		選択	1		◎	
	行動医科学・ヘルスコミュニケーション学領域	ヘルスコミュニケーション概論	前		必修	1			◎
		行動医科学	前		必修	1	◎		
	健康管理・政策学領域	健康・医療ビッグデータ概論	前		必修	1		◎	
		健康・医療ビッグデータ特論		前	選択	1		◎	
		健康政策・医療経済学概論	前		必修	1	◎		
		社会健康医学倫理概論	前		必修	1		◎	
社会健康医学倫理特論			前	選択	1		◎		
ゲノム医学専門科目	ゲノム医学概論	前		必修	1		◎		
	ゲノム医学特論		前	選択	1		◎		
	ゲノム・オミックス解析法	後		選択	1		◎		
	人類遺伝学	後		選択	1		◎		
	ゲノム医学特論（疾患と遺伝子）		前	選択	2		◎		
発展科目	フィールド実習		前	選択	1		◎	◎	
演習等特別研究	修士論文	一	通	必修	8		◎		

必修計	27
選択計	15
合計	42

<ディプロマポリシー>

①	公衆衛生の5つのコア領域の基本的内容を理解
②	研究計画を自ら立案し、実行できる能力
③	研究成果を還元できるヘルスコミュニケーション能力
④	実践活動においてリーダーシップを発揮できる能力